

令和 3 年度

事業報告

(令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 3 1 日)



社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会

令和3年度

社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 事業報告

1. はじめに

令和3年1月19日に法人内で初めて感染が確認された新型コロナウイルスは2月16日に収束し、ご利用者やご家族、職員やその家族のご協力のもと、感染例は無く、経過しておりましたが、再び、令和4年1月19日に感染による発症確認がありました。

変異した新型コロナウイルスの感染力は強く、同時期に、さまざまな経路から複数の事業所に広がることとなりましたが、3月28日には静養者もゼロとなり、一応の収束となりました。休業・自粛期間中においては、ご利用者、ご家族の皆さまには自粛等のご協力をいただき、多大なるご心配、ご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。新たな変異株の情報もあり、4月に入って感染者数も増加傾向にあり、引き続き、感染予防・対策にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナが感染拡大する緊急事態の中でも、陽性者への支援も含め、職員同士がコミュニケーションを深め、利用者を第一に考え取り組む姿勢には、心強く思うとともに、事業所の垣根を越えて協力し、声を掛け合い支え合える職員集団には感謝の気持ちとともに、大変誇りに思います。

年間を通して制約された状況の中ではありませんでしたが、創意工夫を尽くして日々の活動や行事等を実施したり、猛暑が続く中での宝塚めふプラザの移転や、寒中のワークプラザ宝塚での空調設備新調工事も無事完了することができました。まだまだ安心して過ごすことが出来る状況ではありませんが、引き続き、自らの健康を大切に思う日々の行動が、その周りの人々の安心と安全に繋がっていることを意識しながら、日々の感染予防対策の継続や支援実践のスキルアップ等に今後も努めてまいります。

2. 総合的な取組について

(1) 組織運営・経営体制の強化について

①法人内部監査の実施について

行政監査による指摘事項への具体的改善対策として、顧問会計士による毎月の各会計拠点往査指導に加え、チェックリストを基にした内部監査を半期ごとに実施しました。日々の記録や会議録等々については、事業所間の認識のバラつきに気付く等、再度、法令遵守に努めることがリスク管理や日々の支援内容の改善等に繋がることを確認し合いました。

②令和4年度「障害者虐待防止の更なる推進のための運営基準」義務化に向けての整備について

ア. 「検証・改善第三者委員会」の設置、開催について

利用者の安全と人権擁護の観点から、既存の各会議、委員会、プロジェクトと連携し、外部委員と共に苦情解決、事故防止、虐待防止等の取り組みについて広く検証し、改善に努めることを目的とする委員会を2回開催しました。

当初の目的でもあった「指摘」「批判」の委員会ではなく、日々の取り組みの中で生じている状況等を正確に伝え、検証・改善に向けて委員の皆様も「自分事」として共に考える委員会運営の素地を作るための初年度であったかと思えます。委員会運営が形骸化しないよう、報告・発議の方法

にも工夫しながら、引き続き取り組んでまいります。

イ. 令和4年度「障害者虐待防止の更なる推進のための運営基準」義務化への対応について

- ・「虐待防止、身体拘束等」の適正化を推進するための指針を再整備しました。
- ・「虐待防止責任者（マネージャー）の設置」などにともない、「運営規程」等関連する規程等の再整備をおこない、兵庫県等に変更届を提出しました。

③事業継続計画（BCP）の策定について

法人及び各事業所としての事業継続計画（BCP）を策定しました。計画の中では、法人としての基本方針や優先継続業務の明確化、各事業所での役割や初動対応、備蓄品等の明確化について整備しました。コロナ感染時の対応状況等の経験を踏まえると、感染時の人員・応援体制等については感染拡大予防や環境整備等々においては、マニュアル通りでは難しい状況も想定されるため、研修や日々の訓練等々を踏まえ、BCP計画の改善を積み重ねていきます。

④福祉サービス第三者評価の実施について

「宝塚めふプラザ」「かしの木工房 こはま」の2事業所が受審しました。例年同様、結果につきましては法人HPに掲載いたします。また、評価後セミナーを実施しており、今後取り組むべき課題や継続できている自分たちの強み等が再確認できる機会となっており、毎回多くの気づきを学び合うことにつながっています。

⑤人事評価制度について

評価制度の運用により、全職員が自ら設定した仕事の目標を真ん中に定期的な面談にて、進捗や振り返りを含めコミュニケーションの場面を持つことが出来ました。

職員の一人ひとりとの面談は日頃の利用者支援の質の向上や確認等にも繋がる貴重な時間だと思われれます。評価面接が「育成・評価・処遇」に相互に関連し合あえる仕組みに繋がるよう、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

（2）各事業所について

①「障害福祉分野のICT導入モデル事業」について

いきいき宝塚では、補助金の交付に伴い、業務効率の改善や情報共有等に向けて環境整備を行っており、ソフトウェアをカスタマイズし、現場で有効に利用できるよう取り組みを続けています。

また、「さざんかグループホーム」にも同事業の補助金が交付されることとなり、市内に点在する各グループホームとの有効な情報共有・業務省力化に向けての取り組みを進めて行きます。

②「ワークプラザ宝塚」空調設備工事の実施

設備老朽化に伴い、宝塚市による空調設備入れ替え工事が令和4年2月より実施しました。寒い時期での空調入れ替え工事でしたが、多くの保護者等からの暖房器具の提供をいただき、無事に完了することができました。ご協力に感謝申し上げます。

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 安定した経営ができるよう正確な財務分析から管理者に課題を示し、共に改善ができるよう提案していきます。 2. 障害者総合支援法に関する情報を正確につかみ、各事業所管理者と共に適正な運営の確認を行います。 3. 就業規則等の大幅な変更に伴い、職員に正確な情報の発信を行います。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度より引き続き、人事・財務・請求の3つの業務に重点を置いて管理者向けの研修を行いました。今年度はマネージメント研修として法人研修の年間計画に組み込んで頂き、実施しました。また、事業所ごとに予算ヒアリングの時間を設け、各事業所の課題や財務分析を含めた事業計画を共有し、相互に理解を深めました。 2. チェックリスト作成にあたって、県への提出がスムーズに行えるよう人員配置や常勤換算の考え方等を改めて管理者に説明しました。 3. 令和3年4月1日付で就業規則が全部改正された事に伴い、改正前と混同しがちな条文を課内会議で確認・共有し、職員への問い合わせに対して正確な発信を心掛けました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について 特記事項無し 2. 研修等 <ul style="list-style-type: none"> 会計実務研修 思いを伝えるコミュニケーション基礎研修 健康保険事務講習会 3. 環境整備等 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として、毎日定期的に換気を行い、空気清浄機を常時稼働させて業務を行いました。また、感染が拡大した際でも業務が極力滞らないよう、在宅勤務の体制を整えました。 4. 事故等 <ul style="list-style-type: none"> 特記事項無し
年間総括
<p>今年度よりリモートアクセスシステムを総務課 PC に導入し、総務課職員の拠点巡回を実施しました。財務分析や勤怠管理の効率的な手段、請求業務に関する情報等を管理者や現場の職員に直接発信し、総務課側も各事業所の特色や支援に関する知識・情報を身につけ、請求業務を通してだけでなく、人員配置や時間外勤務等が具体的に運営にどのように結びついているか等、相互に理解を深める機会を作ることができました。</p> <p>また、昨年度より引き続き管理者向けに月次決算データや稼働率等の参考資料を作成し、課題点や改善案等を提供しました。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	総務課		
	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
主な内容	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月					
6月	23:福祉人材センター 思いを伝えるコミュニケーション基礎				18:法人研修E⇒オンライン開催
7月	13:兵庫県社会保険協会 健康保険事務講習会(阿部・三 20-26:社会福祉法人の会計・ 税務入門(川村・阿部・三神)				29:経営計画策定リーダー養成ゼミナール(山川)
8月	6:福祉人材センター 思いを伝えるコミュニケーション基礎				26:経営計画策定リーダー養成ゼミナール(山川)
9月				30:福祉人材センター 会計実務担当者研修 税務編(阿部・)	17:経営計画策定リーダー養成ゼミナール(山川)
10月					29:経営計画策定リーダー養成ゼミナール(山川)
11月	30:兵庫県社会保険協会 健康保険事務講習会(三神)				12:法人研修E 26:法人研修F(川村・阿部・三神)
12月				1:財務分析の基本を学ぶ(川村)	17:経営計画策定リーダー養成ゼミナール(山川)
1月				28:福祉人材センター 会計実務担当者研修 予算・決算編(阿部)	28:法人研修E⇒オンライン開催
2月				15:福祉人材センター 社会福祉法人財務管理研修※財務分析を学ぶ(川村)	
3月					

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者一人ひとりの日々の生活の様子に目を向けて、年齢や身体、行動面の配慮を踏まえて必要な支援を提供します。 2. 利用者が個々に自分の力を発揮できるように支援を行います。 3. 利用者の権利擁護について振り返り、学ぶ機会を定例化します。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日の生活の中で、個々の生活のペースや一人ひとりの個性を理解する様に努めて、支援を継続しました。表面的に起こっている行動の意味や、支援のポイントを検討し、毎月利用者様全員の現状や今後の支援について、毎月作成する「近況報告書」で共有を行いました。 2. 利用者様個々の力を発揮できる様に、基本的な生活支援を基礎としながら、室内の企業提携作業、屋外での公園清掃、リサイクル活動（アルミ缶リサイクル、金属分解等）を準備して提供。利用者様個々のペースを大切にしながら作業を完遂しました。 3. 4月の支援会議で、法人理念、倫理綱領、職員行動規範を共有。5月の支援会議で所内研修として、本人中心支援について（出典：人権擁護の基本姿勢）の確認を行いました。6月の支援会議では法人理念、倫理綱領、行動規範を読んで職員それぞれが考えた事や意見をまとめて共有を行いました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について <ul style="list-style-type: none"> 定員 40名 現員 42名（男性 30名 女性 12名） 退所者 1名（入所施設への移行を希望） 2. 研修等 <ul style="list-style-type: none"> 【法人研修】ファースト・スキルアップ・ブラッシュアップ・スペシャリスト・マネジメント 【外部研修】障害福祉新任職員研修 1名 行動援護従業者養成研修 4名 <ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害支援者養成研修（実践研修） 1名、強度行動障害支援者養成研修（指導者） 1名 てんかん基礎講座 2名、強度行動障害スーパーバイザー養成講座 オンライン報告会 2名 3. 環境整備等 <ul style="list-style-type: none"> 1階、別館事務所電気工事（漏電対策等）、2階トイレ床下工事、 4. 事故等 <ul style="list-style-type: none"> 車両 3件、怪我（自・他含む） 13件、物損 2件、誤薬 1件、その他 2件
年間総括
<p>利用者様の怪我が多く発生しました。利用者様のペースや好み、苦手さなどに十分に寄り添う事ができる時間の確保や、本人中心という支援の軸を実際に行う事ができる様な活動バランス等は見直しが必要である事を再認識しました。職員は利用者様の心身両面の理解やサポートができるような研修派遣を行いました。</p> <p>安心、安全、利用者個々の生活を大切にできることを最優先としていきたいと考えています。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	宝塚さざんかの家		
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・囑託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					4/13Dr.研修
5月					
6月	6/25障害福祉新任職員研修(森田)	6/7,8,10,11強度行動障害支援者養成研修(指導者) 6/16,23,30行動援護従業者養成研修(宮本)			6/10(木)ブラッシュアップ研修(鍋谷、古田)
7月	7/25てんかん基礎講座(宮本)	7/14,21,28行動援護従業者養成研修(山下) 7/15強度行動障害スーパーバイザー養成講座オン			7/16(金)ファースト研修(森田、田中)
8月	8/8てんかん基礎講座(森田)	8/28,29強度行動障害支援者養成研修(実践)加堂			
9月		9/1,8,15行動援護従業者養成研修(鍋谷)			9/24(金)ブラッシュアップ研修(鍋谷、古田)
10月		10/14,21,28行動援護従業者養成研修(森田)			10/22(金)ステップアップ研修(宮本、岩崎)
11月					11/17心理士研修 11/26(金)ソーシャルワーク研修(木村、加堂、野口)
12月					12/14Dr.研修 12/16心理士研修 12月 虐待防止研修(山下、野口、木村、加堂、鍋谷、古田、岩崎、宮本、川村、田中、森田、佐野、渡部、津嘉山、佐々木、藤、北田、小松原、小松)
1月					1/14(金)ファースト研修(田)
2月					
3月			3/15サビ官更新研修(野口)		

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活が安心、安全に提供できるよう心地よい居場所作りを提供します。 2. 利用者の権利擁護に配慮した取り組みを行います。 3. 利用者支援に関するマニュアルの整備を図ります。 4. 食事と防災の視点で地域住民や地域の多様な団体と地域貢献活動を実施します。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のニーズに合わせて生活支援プログラムの班編成、活動回数の見直しを行い、ゆとりをもって活動を提供することができました。10月の秋祭り、11月の焼きいも会、12月のクリスマス会の行事の装飾等の準備を園全体で楽しく取り組むことができました。 2. 11月に雑誌からの引用を使用して支援の見つめ直しを主眼に虐待防止研修を実施しました。12月に虐待防止チェックリスト、1月に法人研修で虐待防止ワークショップを通じて利用者の権利擁護について意見を交わすことができました。 3. 生活支援プログラムの業務マニュアル、台帳整理マニュアルの整備を図りました。 4. コロナの影響により2月から4月に変更になりましたが、鳥島団地住民と『食事と防災の視点の交流事業』を実施し、顔と名前がわかり合える関係性を構築していきます。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について <ul style="list-style-type: none"> 定員 40 名、契約者数 41 名 7月、8月かき氷会、10月秋祭り、11月焼きいも会、12月クリスマス会を年度初めに計画して新型コロナウイルスが落ち着いていることもあり、予定通り実施。 2. 研修等 <ul style="list-style-type: none"> 10月 ひょうご防災リーダー フォローアップ研修 1名 10月～3月（12講座）はりま福祉総合評価センター福祉サービス向上オンライン研修会 7名 3. 環境整備等 <ul style="list-style-type: none"> 11月 公用車リース契約変更（予算をあげての計画的変更） 12月 空調機購入（17年前に取得の為、計画的購入） 4. 事故等 <ul style="list-style-type: none"> 他害 1件、服薬 1件、行方不明 1件、器物破損 1件、怪我 1件、車両事故 1件
年間総括
<p>今年度の一部法改正に伴い、虐待防止対策の強化について、委員会を設置し、職員会議を通じて虐待防止の研修を実施しました。法人の対応マニュアルの読み合わせから始まり、クイズ形式、雑誌からの引用、グループ討議等、手法を変えて研修会を実施しました。</p> <p>業務継続に向けた取り組み（BCP）の強化の一環として、9月1日（防災の日）は、非常食を給食で提供しました。1月には、職員会議内で防災の研修会を実施しました。今後は、近隣の鳥島団地住民と定期的に食と防災についての講話と実習を取り組んでいきます。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

主な内容	施設名 宝塚あしたば園				
	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	<ul style="list-style-type: none"> ・新採用者研修 ・基礎的知識 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月					
6月	6/25 県社協新任zoom研修(水原)				ブラッシュアップ動画研修(山崎、石塚、鶴田) マネージメント動画研修(所長)
7月		7/2 OJTリーダー養成研修(吉村)			スキルアップ研修(駒田、西嶋、吉村) ファースト研修(小林、水原)
8月					
9月			9/1、9/8、9/15 行動援護従業者養成研修(西嶋)		
10月	10/22 はりま福祉オンライン 福祉従事者の心がまえ(水原) 10/26 はりま福祉オンライン 介護事故の防止にむけて(小林)	10/17 ひょうご防災リーダーフォローアップ研修『リアル避難所運営訓練』(藪内)			10/22 スキルアップ法人研修(駒田、西嶋、吉村)
11月	11/10 はりま福祉オンライン研修 サービス記録のポイント(水原)	11/13 内閣府モデル研修『連携と協働の災害時要援護者支援』(藪内)	11/22 はりま福祉オンライン研修 福祉施設における身体拘束(所長)		11/12 マネジメント法人研修(谷口所長) 11/26 ファースト法人研修(小林、水原)
12月		12/7 日本栄養士会災害支援チームスキルアップセミナー(藪内) 12/7 JDA-DAT研修『災害における食生活支援活動に関する協定について』(藪内)	12/6 はりま福祉オンライン個別支援計画の作成(石塚) 12/14 はりま福祉オンライン利用者の意思決定支援(山崎)		虐待防止研修(又村あおい氏)
1月		1/10 ひょうご安全の日、阪神北地域のつどい『地域で支える災害時要援護者』(藪内)	1/12 はりま福祉オンライン福祉サービスの組織と運営(主任) 1/21 はりま福祉オンライン事業計画作成のポイント(主任)	1/13 サポートセンターまつば見学	虐待防止グループワーク研修 1/28 マネジメント法人研修(谷口所長)
2月			2/7 はりま福祉オンライン福祉における人事管理の基礎知識(所長) 2/15 はりま福祉オンライン福祉施設における災害対策(所長) 3/2 はりま福祉オンライン運営推進会議における自己評価(主任) 3/18 はりま福祉オンラインサービスの質の向上の仕組み作り(主任)		

今年度の重点目標
<p>1. あるでこむ建て替え完了予定である2023年末までの仮移転先として、かしの木工房横への引っ越しを行います。職員・利用者・ご家庭と協力しながら、無事に完了を目指します。</p> <p>2. 支援、業務（会議、書類等含む）全般において、疎放ではなく、見直しや整理等を職員間で意識的に行っていきます。</p>
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<p>1. 7月末に移転業務は無事完了しました。関係機関の調整や現場との情報共有を密に行い、最後まで事業所全体のモチベーションを保った状態のまま遂行出来ました。後期は、大きく環境が変わった事での慌ただしさから落ち着いた日常を早く取り戻せるよう、システムの見直しや修正を日々職員間で行っていきましました。</p> <p>2. 第三者評価受審を追い風として、各記録やマニュアル整備については、年間計画に具体的に明記して、進捗状況を全職員で確認しながら進めて行く事が出来ました。次のステップとして、その意味や活用していく意識付けを職員間で浸透していくよう取り組んでいきます。</p>
報告事項
<p>1. 利用者について 定員20名 契約者20名 入退所者なし</p> <p>2. 研修等 各職員の研修については、トップダウンではなく、自主申告重視。 他に主な研修としては、行動援護研修修了者2名 サービス管理責任者基礎研修1名修了</p> <p>3. 環境整備等 引っ越し業務完了し、2021年7月27日小浜4丁目1-1にて、新めふプラザ開所。</p> <p>4. 事故等 器物破損3件 他害4件 服薬忘れ1件 無断外出1件 車両事故2件</p>
年間総括
<p>何よりもめふプラザにとって、今年度の最大のミッションは、事業所移転を無事に完了させる事でした。職員はもちろん、ご利用者・ご家族等、事業所全体でコミュニケーションを上手く取りながら雰囲気良く遂行し、結果、大きなトラブルや事故無く完了出来た事は、大きな成果だったと感じています。</p> <p>又、後期は記録関係の整備の他、引っ越し前の日常を一日でも早く取り戻せるよう、職員間で細かな情報共有を行いました。おかげで少しずつですが、以前のめふプラザの日常に戻りつつあります。コロナ禍が続く、何事にも閉塞感が漂いがちですが、安全に気を付けつつ、活気のある事業所運営をこれからも心掛けていきたいと思っています。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	めふプラザ		
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	<ul style="list-style-type: none"> ・新採用者研修 ・基礎的知識 等	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	<ul style="list-style-type: none"> ・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	<ul style="list-style-type: none"> ・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	<ul style="list-style-type: none"> ・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 ・作業療法士研修 等
4月					
5月					
6月					リーダーシップ研修(堀)→中止 障害者福祉新任研修(堀江、山本洋、末岡)→中止 法人研修ブラッシュアップ→大西、趙
7月		OJTリーダー研修→大西	防火管理者講習→平賀 強度高度障害アドバイザー研修→堀		法人研修ファースト→小畑、平賀、津田
8月			コーチング研修→大西		
9月		記録の基本と環境整備→平賀	行動援護従事者研修→小畑		ハラスメントミニ講座→全員 ブラッシュアップ研修→大西、趙
10月		新任ステップアップ研修→平賀、津田	行動援護従事者養成研修→堀		スキルアップ研修→下、中井 前林Dr研修(かしのきと合同)
11月		地域福祉研修→下(中止) 将来を見通したた進路のシンポジウム→山本(中止)	アセスメントスキル向上研修→趙	社会福祉法人指導監査のポイントと対策→山本(中止)	ソーシャルワークスペシャル研修→堀
12月				リスクマネジメント研修→堀	虐待防止研修→全員 幸福Dr研修(作業療法士)→全員
1月					法人研修ファースト→小畑、平賀、津田 前林Dr研修→全員
2月					
3月		スケジュール支援のポイント→堀、大西、小畑、平賀、			

<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者一人ひとりが生産活動に携われるように、作業の細分化や工夫及び作業の見直し等を行います。 2. 興味関心、好きなことに目を向け、その人自身の表現力を引き出します。また、一人ひとりの想いが話せる機会を設け、可能な限り本人が楽しみながら参加できる活動を共に考え、提供します。 3. 地域の方との関りを大切にし、地域の活動に参加し、地域の方との関係性を構築できるように取り組みます。
<p>目標達成に向けての取り組み経過及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人ひとりが作業に携われるように、作業種の見直しなど行いました。目標工賃については定めるところまでは行きませんでした。工賃基準を大幅に見直し、より現状に即した支給方法に変更しました。 2. 利用者様の意見を大切にし、創作的活動に取り組みました。二か月に一度、ケース検討会議を開催し個別支援計画書の進捗状況等の確認を行いました。 3. 安倉西4丁目で行われているサロンの運営委員会には、毎月参加をして地域の方との交流に努めました。宝塚けやきの里内で行われるお祭りを地域に発信しましたが、参加者はありませんでした。
<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者様について 定員 30名 現員 26名 (男性 18名 女性 8名) 9/30 1名退所 西宮市の入所施設利用の為 10/29 1名退所 伊丹市のグループホーム利用の為 12/8 1名退所 宝塚市の入所施設利用の為 2. 研修等 延べ人数：11名(10月：3名、11月：3名、12月：1名、1月：2名、3月：2名) チームアプローチ実践研修、新任職員ステップアップ研修、リスクマネジメント研修(虐待防止対策)、アセスメントスキル向上研修、宝塚市地域福祉研修、リスクマネジメント研修(感染症対策)、音楽療法研修、兵庫県サービス管理責任者更新研修 3. 環境整備等 11/15～12/15 外壁改修工事 4. 事故等 ・利用者様関係 13件【器物破損 10件、他害 1件、転倒 2件】 ・車両事故 2件
<p>年間総括</p> <p>今年度は利用者様の退所が相次ぎました。退所された理由として、親の高齢化等に伴い他市のグループホーム等を利用する為でした。その影響により今年度の大半は定員割れの状態で、障害福祉サービス等事業収益が前年度よりかなり減少する見込みです。</p> <p>宝塚けやきの里のサービスについては、高齢化及び重度化により利用者様のニーズが幅広くなりました。その為、個別に聞き取りを行い作業以外の活動も新たに取り入れ、日中活動の充実に努めました。</p> <p>最後に 1/28(金)に新型コロナウイルスの罹患者が発生し、最終的には利用者様及び職員合わせて10名の罹患者が発生しました。感染の拡大を防止する為に1/31(月)から2/14(月)までの間、閉所させて頂きました。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	宝塚けやきの里		
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月					
6月					6/10(木)ブラッシュアップ 研修(小形)
7月					7/1嘱託医研修 7/9(金)ステップアップ研修 (田野) 7/16(金)ファースト研修(河 野、福田)
8月		8/28SSTファーストレベル 研修(片山)			
9月		9/1行動援護従事者養成研 修(田野)			9/24(金)ブラッシュアップ 研修(小形)
10月	10/13新任職員ステップアッ プ研修(河野)	10/4チームアプローチ実践 研修(田野)		リスクマネジメント研修(虐待 防止対策)(脇田)	10/22(金)ステップアップ研 修(田野)
11月		11/26アセスメントスキル向 上研修(小形)		11/12(金)宝塚市地域福祉 研修(片山) 11/26(金)宝塚市地域福祉 研修(脇田)	11/11嘱託医研修 11/26(金)ソーシャルワーク 研修(片山、廣田)
12月				12/7リスクマネジメント研修 (感染症対策)(田野) 12/13リスクマネジメント研修 (苦情・クレーム対応)(片 山)	12/10作業療法士研修 12/16虐待防止研修(脇田、 片山、廣田、田野、小形、河 野、福田、江藤、平山、小 山)
1月		1/28(金)音楽療法(河野・ 福田)			1/6嘱託医研修 1/14(金)ファースト研修(河 野、福田)
2月					2/15(火)マネジメント研 修(脇田)
3月			3/17(木)兵庫県サービスマ ニャー更新研修(片山) 3/23(水)兵庫県サービスマ ニャー更新研修(廣田)		3/3嘱託医研修 3/18作業療法士研修

<p>今年度の重点目標</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業と生活のしやすい環境を整え、個人が持っている力を発揮できるようにします。 自分の思いを伝えられるようなきっかけを作れるようコミュニケーション技術を職員が身につけ思いを引き出していきます。 2. 資格取得や強度行動障害などの研修に参加し、知識や技術を学び、実践に活かしていきます。 行動力（かかわる）・想像力（かんがえる）・創造力（つくる）を身につけていきます。 3. 地域のつながりを意図した活動を行っていきます。 地域の方に障害のある人の暮らしを知ってもらえるような啓発をしていきます。
<p>目標達成に向けての取り組み経過及び内容</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業と生活のしやすい環境を整え、細かな事でも気付きがある際は、毎日行っている連絡会で、共有を行いました。そして、強みは支援に生かし、弱みは配慮する事で、個々の力が発揮できる様に心掛けました。今年度、自分の思いを伝えられるきっかけ作りとして行っている、目標の木の振り返りを3月に行う予定にしております。 2. 経験年数等で、それぞれの職員に合った研修に参加しました。研修内容が受講した職員だけではなく、職員全員で共有が出来るように会議等で報告の機会を設けました。受講した職員も他の職員に報告をする事で、より内容を深く理解でき、実践に繋げる事が出来ました。 3. 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域のお祭り等は行いませんでした。 阪急山本駅やご利用者が立ち寄る売店、コンビニ、近くのクロネコヤマトに、ご利用者と一緒に、事業所の活動を知って頂く為に「とりくみのまとめ」と、法人広報誌を配り挨拶を行いました。
<p>報告事項</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について 定員 50 名（生活介護 40 名就労継続支援 B 型 10 名）現員 51 名（生活介護 41 名就労継続 B 型支援 10 名）退所者：生活介護 1 名（介護付き有料老人ホーム）就労継続支援 B 型 1 名（就労継続支援 A 型事業所） 2. 研修等 サービス管理責任者 1 名（基礎研修）サービス管理責任者 1 名（更新研修） 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）1 名 法人研修 スキルアップ・ブラッシュアップ・マネージメント 外部研修 自閉症 e サービス 相談面接技術研修等々。 3. 環境整備等 2 月、3 月に全館、空調の入れ替え工事を行いました。 4. 事故等 車両事故件 2 件 器物破損件 1 件
<p>年間総括</p>
<p>今年度は、昨年度、監査で指摘のあった箇所の書類の見直しや整備、記録の書き方について、職員間でしっかり共有を行い、意識の向上を図りました。また、コロナ禍で、ご利用者が楽しみにされている活動も少なく、制限されることも多かったのが残念でした。ワーク内でも、感染対策を、ご利用者、職員が一丸となって「感染者が出ても、感染者を増やさない」を合言葉に、手洗い、換気、館内消毒と、みんなで声を掛け合いながら行いました。来年度も、感染対策をしっかり行いながら、ご利用者が楽しめる活動を行い、仕事も遊びも一生懸命のワークプラザ宝塚で、頑張っていきたいと思っております。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	ワークプラザ宝塚		
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月		新任研修 5月25日 小堀			
6月				安全運転管理者等講習 24日 三善	法人研修:ブラッシュアップ オンライン 石澤 古味 法人研修:マネージメント オンライン 松永
7月		強度高騰障害の支援について 自閉症eサービス 大人になった高機能自閉症 の人たちの話 zoom 7月17日 和田	安全衛生推進研修 6日、7日 松永		法人研修:スキルアップ 9日 三善 小堀 横山
8月		自閉症eサービス 表出コミュニケーション 24日、25日 zoom 和田	3日、4日 サービス管理責任者基礎研修 オンライン 石澤		法人研修:ハラスメントミニ講座 法人研修:ブラッシュアップ 24日 石澤 古味 神
9月					
10月		自閉症eサービス 高機能自閉所、大学生支援 と就労支援 自閉症eサービス 強度行動障害支援における 標準的支援と人材育成 zoom 30日 和田			法人研修:スキルアップ 22日 三善 小堀 楯
11月		自閉症eサービス 思春期の変化と性教育 zoom 20日 神尾			法人研修:マネージメント 12日 松永 法人研修:ソーシャルワーク 26日 阪口 広瀬
12月		障害のある方のアート活動 に必要なこと オンライン 3日 折田			法人研修:虐待研修 動画視聴 グループワーク 全員
1月		相談面接技術研修 20日、21日 小堀	強度行動障害支援者養成 研修(基礎研修) オンライン 19日、31日 阪口		
2月					法人研修:マネージメント オンライン 松永
3月		スケジュール支援のポイント 3日 オンライン 和田 松永	サービス管理責任者更新研修 7日 オンライン 広瀬 2021年度強度行動障害 スーパーバイザー養成講座 における実践 オンライン 古味		

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者お一人おひとりの主体性を大切にし、細やかな支援を行える事業所づくりを行います。 2. 地域の方に愛されるお菓子を作り、交流と啓発を進めています。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者自治会を開設し、会議で出た意見をもとにクリスマス会と忘年会を行いました。短い時間でしたが、皆が笑顔になる良い時間を過ごすことが出来ました。隣接するめふプラザの連携としては、合同の共有会議を行い、利用者の特性や支援について、情報共有を行いました。今後も、利用者、職員の交流を行っていきます。 2. 食品の表示に関しては、HACCP の表示方法の変更に際し、阪神農林振興事務所から視察に来られ、表示の変更を無事に終えることが出来ました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について <ul style="list-style-type: none"> 後期は12月末に1名の退所があり、現在37名です。 退所理由としては、もっと工賃が欲しいとの事でA型事業所へ移行しました。 2. 研修等 <ul style="list-style-type: none"> 11月 はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（濱田、岩崎） <ul style="list-style-type: none"> 行動障害支援者研修（下吹越） AEDを使用した救急救命法研修（感染防止委員会） 吐物処理研修（感染防止委員会） 12月 手洗いの実践研修（感染防止委員会） 1月 新しい原産地表示制度研修（下吹越） 3. 環境整備等 <ul style="list-style-type: none"> 後期も食堂・廊下・会議室のポリッシャー洗浄、ワックス掛けを行い、美化に努めました。 玄関前の植え込みを花壇スペースにして、少しでも地域の方との交流の場になるよう、準備中です。 4. 事故等 <ul style="list-style-type: none"> 他害3件
年間総括
<p>今年度は、第三者評価の実施に際して準備を行い、その中で気づいたことについて整えていくこと、支援体制を整えることを中心に取り組みました。職員のローテーションを活発に行う事で、担当の作業フロアを越えてお互いのフロアの状況を思いやる事が出来るようになりました。また、支援に人員が必要な場所のフォローアップも共通認識が出来、スムーズに行えるようになってきています。製菓の販売イベント等は社会情勢的に少なくなっています。今後は、かの木の商品を求めていただけるように、味や売り方にもこだわって準備していきたいと思えます。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	かしの木工房こはま		
	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
主な内容	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月	障害福祉新任職員研修(濱田)				
6月	障害福祉新任職員研修(濱田)				法人研修C 6/4(中村) 法人研修E 6/24(溝田)
7月		OJTリーダー研修(下吹越) 強度行動障害支援者養成講座(原田、中村)			法人研修A 7/16(濱田、岩崎)
8月		OJTリーダー研修(下吹越) 強度行動障害支援者養成講座(原田、中村)			
9月		行動援護支援者研修(溝田)			
10月		リスクマネジメント研修 虐待防止10/19(原田) 行動援護支援者研修(下吹越)			法人研修B 10/22(下吹越)
11月	はじめて福祉の仕事に就く人 のための研修11/8(岩崎・濱田)		介護の日オンライン11/10(溝田)	宝塚市地域福祉研修 11/12.26(溝田) BCP策定・運用のポイント 11/15(溝田)	ハラスメントミニ講座11/1(全員)
12月					
1月					マネジメント研修1/28(溝田)
2月					
3月		スケジュール支援のポイント 3/3(全員)			

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員の人権意識向上をはかります。 2. 利用者一人ひとりの年齢や体力、疾患、行動特性、体調の変化等に配慮した支援を行います。 3. リスクマネジメントに取り組み、日々の活動の中で怪我や事故が無いようにしていきます。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 支援を振り返るきっかけとして、実習や見学等を通して外部からの意見を受け入れ、職員間で共有していきます。 2. 日々のバイタルチェックに排泄状況の記録を加え、健康面に対する情報収集を増やしました。また、その情報を嘱託医研修でのケース検討にあげ、医師と看護師、支援員、ご家族様と共有し、かかりつけ医への受診へつなげたり、支援での配慮事項を深めたりしました。 3. 日々の体調等に合わせて利用者の活動内容を検討し、ホワイトボードに提示することで無理のないプログラムを提供しました。支援員の動きにもゆとりができ、安全性も高められました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について 定員17名 現員15名 (男性4名 女性11名) 8月27日 1名退所 宝塚市の入所施設利用の為 11月30日 1名退所 西宮市の施設利用の為 2. 研修等 法人研修：ファースト・スキルアップ・ブラッシュアップ・スペシャリスト・マネジメント 外部研修：自閉症スペクトラム症ワークショップ・コロナ感染対策研修・防火管理者研修 音楽療法研修 3. 環境整備等 3月中旬に壁の破損部分を補修予定 4. 事故等 器物破損2件、転倒1件、怪我2件、誤嚥1件、車両1件
年間総括
<p>ご家族様の高齢化や送迎の難しさから2名の退所がありましたが、次年度は、法人内外含め、くるみの里の特色を知っていただき、新たな契約に結び付けていきたいと思っております。</p> <p>これまでは、ワンフロアでの活動が中心となっていましたが、スヌーズレン室を個別対応の場所にしたり、ソファやパーテーションの配置換えをしたりしながら、各利用者の過ごしやすさを考えました。健康・体力の維持増進も大切にしながら、各利用者にとって安心できる心地良い場所であり続けられるよう努めていきます。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	宝塚ぐるみの里		
	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
主な内容	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					4/20(火)心理士研修
5月					
6月	6/25(金)新任職員研修(井元) 6/26(土)自閉症eサービス研修(中越・女鹿)				6/10(木)ブラッシュアップ研修(川合・中越) 6/24(木)マネージメント研修(福田)
7月	7/2(金)自閉症eサービス研修(中越)				7/9(金)スキルアップ研修(井上・神田) 7/16(金)ファースト研修(岸部・井元)
8月	8/8てんかん基礎講座(源野・井元)	8/4(水).18(水).25(水)行動援護従事者養成研修(井上)			
9月					9/24(金)ブラッシュアップ研修(川合・中越)
10月					10/22(金)スキルアップ研修(井上・神田)
11月	11/8(月)初めて福祉の仕事に就く人のための研修(井元)				11/9作業療法士研修 11/12(金)マネージメント研修(福田) 11/26(金)ソーシャルワーク
12月		12/8(水).15(水)自閉症スペクトラム症ワークショップ(神田・川合)	12/20(月).21(火)甲乙防火管理者講習(中越)		12/22虐待防止研修
1月		1/28(金)いたみ杉の子音楽療法士研修(井元)	1/18(火)コロナウィル対策研修(源野)		1/11(火)嘱託医研修 1/14(金)ファースト研修(井元)
2月					2/1(火)マネージメント研修(福田)
3月					

<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (1) 利用者の障害・行動特性、精神・身体状況を理解します。 (2) 高齢化や持病の悪化など身体機能が低下した利用者の支援と生活を考えます。 2. 環境整備を行い、事故を軽減します。 3. (1) 関係機関と連携を強化します。 (2) 利用者の生活の質を高める為に支援の質の向上を図ります。 4. 感染症対策を継続します。
<p>目標達成に向けての取り組み経過及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修（オンライン）に参加し、利用者の特性に応じた支援が展開できるようになってきました。高齢化については特別養護老人ホームに移行するなど形になってきましたが、支援者の介護技術不足、考え方などに課題があるために何かしらの対応が必要であると考えています。 2. 前期同様、修繕が必要な箇所を把握し、必要に応じて対応しました。 3. 地域包括支援センターなど障害福祉分野以外の機関と連携し、研修の検討、高齢障害者の今後の生活について情報共有しました。 新型コロナウイルス感染症の影響で利用者の外泊・外出が制限される状況であったが、季節を感じて頂けるよう行事を例年以上に実施しました。
<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について 利用者数 38名（定員40名） 令和3年12月に2名の利用者が特別養護老人ホームを利用するため退所されました。 2. 研修等 ①法人研修 ファースト・スキルアップ・ブラッシュアップ・マネージメント ②外部研修 オンライン研修（多数）・自閉症 e サービス・リスクマネジメント研修等 3. 環境整備等 記録管理システム Blue Ocean Note を導入しました。 4. 事故等 転倒 4件 器物破損 1件 異食 1件 薬関係 1件 怪我 4件
<p>年間総括</p> <p>視覚的な支援など利用者の特性に応じた支援の個別化が進み、利用者が快適に生活できるようになってきました。高齢化に関する課題は障害福祉分野以外と連携が深まり年齢を重ねても安心して生活ができる状況となりつつあります。しかし、家族にとっては、終の棲家という認識で利用されてきた経緯や長年利用してきたこともあるため、移行への理解を保護者会など通じて得ていきたいと考えています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は変異株の出現などまだまだ対策が必要であるが、これをネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに捉えて事業を進めています。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		いきいき宝夢			
		施設名			
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月			呼吸音の聴診のコツ:財津 ※オンライン		
6月	令和3年度障害福祉新任職員研修:南田				法人研修(ブラッシュアップ) 高島弘司・守田卓司・原田 法人研修(マネージメント): 伊藤
7月			強度行動障害スーパーバイザー養成講座におけるオンライン実践報告会:伊藤・大西		法人研修(スキルアップ) 奥園俊樹・荒木智子・清田 貴美代・明石伊織・溝邊伊織 法人研修(ファースト) 総毛雪矢・三好祥生・越智 涼華・阪上卓也・南田葵・玉 川ひかり
8月		地域福祉研修:大西	令和3年度兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修 :伊藤		
9月				リスクマネジメント研修:伊藤 会計実務担当者研修:安藤	法人研修(ブラッシュアップ) 高島弘司・守田卓司・原田 靖貴・三分一沙耶
10月		令和3年度障害者虐待対応力向上研修:玉川	強度行動障害スーパーバイザー養成講座におけるオンライン実践報告会:伊藤・大西 令和3年度兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修:伊藤		法人研修(スキルアップ) 奥園俊樹・荒木智子・清田 貴美代・明石伊織・溝邊伊織
11月		地域福祉研修:大西	令和3年度兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修:伊藤	Daigasエナジー主催 医療・福祉 オンラインセミナー :伊藤 兵庫県BCP 策定・運用のポイント研修:伊藤	法人研修(マネージメント): 伊藤・安藤 法人研修(ソーシャルワーク) 大西・尾崎・北・財津・木水・ 安藤
12月				リスクマネジメント研修:尾崎	法人研修:全員
1月			コロナウイルス対策研修:財津		内定者研修:伊藤 法人研修(マネージメント): 伊藤
2月			強度行動障害スーパーバイザー養成講座:尾崎 令和3年度兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修 :伊藤		内定者研修:財津 法人研修(ソーシャルワーク) 大西・尾崎・北
3月					

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ホームで提供するサービスの標準化を図ると共に個別支援計画に基づいた支援を深めていきます。 2. サービス提供と共に、職員一人ひとりが事業運営に携わっている意識を持ちながら、業務の改善を図り、収支改善に努めます。 3. 利用者一人ひとりの人権や個性を尊重できるホーム運営をします。 4. 感染症拡大防止の為に、ホームの衛生管理と、利用者の健康管理について確実に取り組んでいきます。 5. 地域啓発を積極的に行います。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. ホームでの引継ぎ情報、支援情報などの取り扱いを統一化して、支援員が変わっても、支援の方向性を統一できるように努めました。 2. 快適なホーム環境提供を目指して、ホームの清掃基準の設定と周知を図り、より快適に利用してもらえるよう努めました。 3. 後期も法人全体研修だけでなく、事業所内で虐待防止部会を2回、虐待防止研修を2回開催し、職員の権利擁護の意識向上に努めました。 4. 毎日の検温と共に、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保、ホーム内の清掃消毒の徹底を図りました。また実際に新型コロナ陽性者の支援を、のぞみホームを活用しながら行いました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者 定員93名 現員86名（3月1日現在） 退所者 12月に退所者 男性1名（他サービスへ移行のため） 計1名退所 2. 研修等 10月 リスクマネジメント虐待研修 3名 11月 新任職員ステップアップ研修 1名 12月 リスクマネジメント研修感染症 1名 自閉症ワークショップ研修 3名 1月 新型コロナウイルス対策研修 1名 計9名参加 3. 新型コロナウイルス陽性利用者対応 陽性者 24名中17名 濃厚接触者 28名中23名 ホームでの見守り支援実施 4. 事故等 誤薬 2件 他害 3件 器物破損 1件
年間総括
<p>この1月末から3月にかけて、多くの利用者、職員に新型コロナウイルス陽性者が発生し、皆様に多くのご心配、ご迷惑をおかけすることになりましたが、利用者ご本人はもちろんの事、ご家族の皆様、支援関係者、法人内事業所の職員の皆様に、多大なるご協力をいただいた事で、今日の前で必要な利用者支援を継続することができました。</p> <p>改めて、利用者を取り巻く支援関係者間の連携の重要性を感じるとともに、感染症や自然災害時の支援体制の構築について、事業継続計画の見直しを図っていきたくと考えています。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	くらしサポートオフィス		
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	<ul style="list-style-type: none"> ・新採用者研修 ・基礎的知識 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月					
6月	コミュニケーション基礎研修:清水雄亮 障害福祉新任職員研修:檜根陸・清水里帆・山寄春萌				法人研修(ブラッシュアップ) 森川三子人・野田太地・武市裕介・後中高典・岩崎優 法人研修(マネージメント) 八木誠
7月	OJTリーダー基礎研修:野田太地				法人研修(スキルアップ) 村田宏樹・藤本大輝・吉備 法人研修(ファースト) 檜根陸・松本龍・吉里亮・清水里帆・山寄春萌
8月					
9月			サービス管理責任者基礎研修 野田太地		法人研修(ブラッシュアップ) 森川三子人・野田太地・武市裕介・後中高典・岩崎優
10月		リスクマネジメント研修(虐待防止) 大路明生・武市裕介・岩崎優大			法人研修(スキルアップ) 村田宏樹・藤本大輝・吉備聖太・清水雄亮・伊藤英莉・生田礼莉
11月	新任職員ベネフィット研修 松本龍				法人研修(マネージメント): 八木誠 法人研修(ソーシャルワーク) 池田良春・大路明生・稲月事業所研修:GHの制度について
12月		自閉症ワークショップ 清水里帆・山寄春萌・松本龍	リスクマネジメント研修(感染症)稲月康泰		法人研修:権利擁護 全員 事業所研修:アルツハイマー型認知症
1月			コロナウイルス対策研修 稲月康泰		
2月					
3月					

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者総合支援法に基づく居宅介護、重度訪問介護、移動支援サービスを行います。 2. 介護保険法に基づく訪問介護サービスを行います。 3. 暮らしサポートオフィスとして、一体化した地域生活の支援を行います。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー一人ひとりに前日支援確認を行い、その際に支援の内容等で相談があれば都度話し合った。又は直接支援現場にサービス管理責任者が行きアドバイスをを行いました。 2. サービスの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・計画相談・各事業所・関係機関と連携を取り、支援のモニタリング、課題があれば支援内容の検討を行いました。 3. 人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で移動支援のキャンセルが相次いで、現ヘルパーの仕事自体が減少した為、新規の人材確保は積極的に行えませんでした。GHの有資格者4名が移動支援のサービス提供を行うことで、GH利用者の余暇の過ごしへの満足度に繋がりました。 4. 暮らしサポートオフィスとしての支援の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、GHサービス管理責任者と会議を開き、利用者の通院・移動支援の日程調整・支援内容の向上を行いました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について <p>利用報告 令和3年度：居宅31名 移動支援58名 重度訪問介護2名 介護保険7名</p> 2. 研修等 <p>コロナ感染拡大防止で対面での研修が難しく、動画等を利用して虐待防止の研修を行いました。</p> 3. 環境整備等 <p>ケースファイル（フェイスシート・個別支援計画等）の見直し情報更新。感染対策フェイスガード・マスク・ガウン・消毒液等の備品を揃えました。</p> 4. 事故等 特になし
年間総括
<p>昨年度までの、事業活動収支のマイナスを改善するため、今年度は業務改善・過度の残業等を減らした。又事務所の体制を縮小することにより、事業活動収支をプラスに転じて改善ができました。</p> <p>ヘルパー利用を当事業所で担いきれない場合、相談支援・ケアマネジャーと連携をとり、他事業所に入ってもらい、双方の支援で途切れる事なく本人主体の支援に繋がりました。</p> <p>又、コロナ陽性利用者様に対して、迅速に相談支援と連携をとり、飲食・日用品の買い物支援、電話での体調確認を行い、陽性の解除の日にサービス管理責任者と訪問し、状態を確認して体調が改善できた為、通常の調理・掃除の支援を行いました。</p>

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5地区の委託相談支援事業所として地域に根差した相談支援を行うためにも、地域の関係機関等への啓発に努めます。 2. 計画相談支援の新規受け入れを進めます。特に、依頼が増えている障害児相談支援への対応を検討します。 3. 一般相談支援においては、精神科病院に長期に入院する方々へのアプローチの方法を検討します。その他、地域でひとり暮らしをする方々への支援を行います。 4. 障害福祉分野だけでなくとどまらず、隣接分野に関する知識の向上を目指します。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 長尾地域包括支援センターからの呼びかけに応じ、例年行われているという「地域つながる研修会」に企画から参加しました。会議を通じて地域の専門機関等との「顔の見える関係」づくりには進展があったと考えます。ただ、当センターからの積極的な啓発活動は行うことができませんでした。 2. 計画相談の契約数は昨年に比して微増となっています。新規計画相談の依頼は第5地区に居住する方を主に受け入れました。一方、療育を希望される障害児相談については療育機関との連携が必要と考えますが、未だ療育機関とのあいだでの構築には至っておりません。 3. コロナ禍のため精神科病院を訪問することや、精神科病院で行われる退院促進に向けたプログラムへの参加などは実現できませんでした。当センターが主催する「地域移行を考える会」は毎月定例で行うことができましたが（2月のみコロナ感染の急激な拡大のため見送り）、それぞれの一般相談支援事業所が行う地域移行支援事業の現状や課題、地域移行支援事業で活用できる資源などについて共有することができました。また、今年度はグループホームを退去してひとり暮らしを始める方に対して自立生活援助を活用し、ひとり暮らし生活へのソフトラッキングを支援しました。 4. 今年度もミーティングの場を用いてケース検討を行いました。また、外部研修等で得た知識の共有をはかることもできました。
報告事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について 特になし 2. 研修等 相談支援専門員現任者研修（岸本）ソーシャルワークにおける多領域・多職種間の連携・協働（管理者を除く職員全員）等 3. 環境整備等 特になし 4. 事故等 特になし

年間総括

相談支援体制を中核とした、宝塚市における地域生活支援拠点等が一定整備され、本年度から本格運用となりました。いわゆる 3 層構造といわれる相談支援体制においては委託相談支援がカギを握る設計となっています。これは、地域の方々の身近な相談場所として、より地域の方々と密接なかかわりを保ちながら相談支援を展開していくことを意味しています。

当センターは従前より宝塚市の委託相談支援事業を担ってきましたが、本年度からは第 5 地区という地域の担当を拝命し、この地域の方々にとっての相談支援機関として再スタートを切らせていただいたと感じています。

ただ新しい船出には難航がつきもので、未だ四苦八苦しながら支援を展開しているような状態です。この地域の方々のための相談支援機関となるためにはどうすればいいのか、この地域の方々に広く相談支援というものを伝えるためにはどうすればいいのか、次年度以降に積み残された大きな課題と認識しています。

計画相談に関しては、サービス利用を希望されるすべての方々の要望に応じることは残念ながらできませんでした。ただ、センターの人員体制でできる、最大の対応を取ることはできたと考えています。

地域相談に関しては、実績として地域移行支援 1 名、地域定着支援 1 名を数えることができました。また、新たに事業を開始した自立生活援助によってグループホームからひとり暮らしの生活にゆるやかに移行できた方もあり、一定の実績を重ねることができたとみています。

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

		施設名	相談支援センターだんぼ		
主な内容	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
	<ul style="list-style-type: none"> ・新採用者研修 ・基礎的知識 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月			14(水)事務局会議 27(火)特定事業所連絡会		
5月			12(水)事務局会議 25(火)特定事業所連絡会		
6月			9(水)事務局会議 22(火)特定事業所連絡会		
7月			14(水)事務局会議 27(火)特定事業所連絡会		
8月			11(水)事務局会議 24(火)特定事業所連絡会 25(水)阪神北圏域委託相談支援事業所連絡会(大平)		
9月		14(火)障害者虐待対応力向上研修(行政・虐待防止センター職員向けD研修)(大平)	8(水)事務局会議 14(火)第1回権利擁護支援ネットワーク連絡会(松尾) 28(火)特定事業所連絡会		
10月		19(火)リスクマネジメント研修(虐待防止対策)(豊川) 29(木)ソーシャルワークにおける多領域・多職種間の連携・協働1回目(松尾・岸本・田坂・大平)	13(水)事務局会議 26(火)特定事業所連絡会		
11月		12(金)宝塚市地域福祉研修1日目(田坂・岸本・松尾・大平) 26(金)宝塚市地域福祉研修2日目(田坂・岸本・松尾・大平)	10(水)事務局会議 30(火)特定事業所連絡会	8(月)福祉サービスに関する苦情解決セミナー(大平) 15(月)BCP策定・運用のポイント(豊川)	26(金)「ソーシャルワーク研修」並びに「スペシャリスト研修」(大平)
12月			8(水)事務局会議 16(木)市立伊丹病院 認知症患者医療センター連携 21(火)特定事業所連絡会		
1月		11(火)ソーシャルワークにおける多領域・多職種間の連携・協働2回目(岸本・田坂・大平)	12(水)事務局会議 25(火)特定事業所連絡会		
2月			9(火)事務局会議 10(木)権利擁護支援ネットワーク連絡会(松尾・関灘) 10(木)相談支援従事者現任者研修1日目(岸本) 22(火)特定事業所連絡会		
3月			7(月)大交流会(田坂・大平) 9(水)福祉学習交流会(大平・関灘) 9(水)事務局会議 9(水)相談支援従事者現任者研修2日目 10(木)相談支援従事者現任者研修3日目 11(金)相談支援従事者現任者研修4日目(いずれも岸本) 22(火)特定事業所連絡会		

<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雇用・体験実習等の受入れ企業の開拓の推進と強化 2. 就業・生活に関する相談支援の充実 3. 様々な関係機関との連携強化 4. 職場適応援助者（ジョブコーチ）支援事業の拡充
<p>目標達成に向けての取り組み経過及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宝塚市内で新たに体験実習を受けて頂ける企業と繋がる事が出来ました。引き続き地場企業に対して、雇用・体験実習の受入れの啓発・促進を目指します。 2. 相談支援は、就労等を希望し相談に来られる方、就労されている方での定着支援としての相談等を行っています。継続的に毎週1回「センター内ケース会議」を行い、具体的支援の情報共有・検討会をもち、今後の見立てや方向性の整理・確認をとり、職員にとっての学びの場となっております。 3. 宝塚市内の各行政機関をはじめ、労働行政関連機関、福祉事業所等と連携し情報共有、ケース会議等を行い、コロナ禍で訪問が難しい場合は、電話やメールにて情報共有を行いました。 4. 就労移行支援事業所から就職するケースが増え、そこで定着支援を取り組まれるため（ジョブコーチ支援との併用不可）ジョブコーチ支援は減少傾向であります。 新規ジョブコーチ支援 1 件、継続ジョブコーチ支援 14 件
<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者について 1名 登録抹消の希望有り 2. 研修等 法人研修：ブラッシュアップ マネジメント 外部研修：OJT 養成研修、ストレスマネジメント、相談支援・就労支援セミナー、宝塚市雇用促進連絡協議会セミナー、阪神北就労支援シンポジウム、アンガーマネジメント等 3. 環境整備等 自動検温消毒一式器と各面談室、事務所に空気洗浄機を購入。 4. 事故等 特に無し。
<p>年間総括</p> <p>運営委員会要綱の修正を市と相談しながら行い、支援記録の電子化と書類整理を職員全体で行いました。今までは在宅で福祉サービスに繋がれていない方も多く登録されていましたが、基幹相談支援センターの開所により若干傾向が変わり、今年度の新規相談者では就労により近い方が多く来られました。来年度は、就労されている方に対して、安定した職業生活が継続できるように定着支援に力を入れていきたいと思えます。</p>

令和3年度 職員研修派遣・受講状況

			施設名	あとむ	
	基礎研修	実践研修	実務研修	運営研修	法人研修等
主な内容	・新採用者研修 ・基礎的知識 等	・権利擁護 ・自立支援 ・ケアマネジメント 等	・県サビ管等研修 ・医療、栄養 ・協議会、協会 等	・会計、労務関係 ・ガバナンス ・苦情解決 ・財政、経営、人材 等	・主任、サビ管研修 ・現場派遣 ・嘱託医研修、心理士 作業療法士研修 等
4月					
5月					
6月			産業保健研修 6/8 (辻)		法人研修C オンライン(押部、藤井) 法人研修E 6/18 (前川)
7月			OJTリーダー養成研修 7/2 (押部) 産業保健研修 7/9,7/20 (辻) 外部人材等の参画による事業検討会 7/16 (前川)	経営計画策定リーダー養成ゼミナール 7/29 (前川)	
8月				経営計画策定リーダー養成ゼミナール 8/26 (前川)	
9月	いたみ杉の子研修「ゼロから学ぶ障害のある子ども・若者セクシャリティ」9/3 オンライン(前川)		ANAウイングフェローズ・ヴィエ子(株)会社説明・オンライン部署ツアー 9/10 (辻)	経営計画策定リーダー養成ゼミナール 9/17 (前川)	法人研修C 9/24(押部、藤井)
10月			エンカレッジ就労支援セミナー-2021 10/7 (藤井) OJTリーダー養成研修 7/2 (西)	経営計画策定リーダー養成ゼミナール 10/29 (前川)	
11月			ストレスマネジメント研修 11/2 (前川) 外部人材等の参画による事業検討会 11/1 (前川) 相談支援・就業支援セミナー オンライン (前川、押部、藤井、西、辻、福島)		法人研修E 11/12(前川) 法人研修D 11/26(西)→キャンセル
12月	ディーキャリア梅田オフィス 業績報告会 12/17 オンライン(押部・辻)		障害学生の社会へのキャリアパスについて学ぶ 12/17 (藤井・西) 宝塚市雇用促進連絡協議会セミナー12/15 オンライン(前川・押部・辻)	経営計画策定リーダー養成ゼミナール 12/17 (前川)	法人研修全体
1月		宝塚市雇用促進協議会 研修 1/24 オンライン(辻)	相談面接技術研修 初級B コース 1/20,21 (辻)→キャンセル		
2月	阪神北地域障害者就労支援シンポジウム		アンガーマネジメント研修 2/7 (藤井)	経営計画策定リーダー養成ゼミナール 2/24 (前川)	法人研修E (前川)
3月	障がい者雇用支援の基本を学ぶセミナー 3/18(辻)				

令和3年度 運営形態

会議等	3年度	
	主	メンバー
評議員会・理事会	理事長	評議員 理事・監事
経営会議	常務	理事長 統括・各部長 *会議日程 原則毎週1回開催
事業運営会議 【所長・課長会議】 司会・記録輪番制 次第書作成及び資料準備は、持ち回りで行う。 *虐待防止マネージャーの集合体として虐待防止委員会を兼ねる	上江洲 辻井	各部長 各所長・課長 *会議日程 毎月2回開催 第2火曜日（連絡会）13：30～15：30 第4火曜日（協議）13：30～15：30
総務会議	大内	山川 川村 三神 阿部 安藤 *会議日程 原則毎月1回開催
サービス提供会議 【主任、サビ管、サー堤会議】 支援・サービス提供等についての情報共有・検討協議	伊藤	月1回 各主任サビ管、主任 *GHは1名 代表出席者を決める。 *ヘルパーステーションは主任
●事業運営に必要な課題別検討PT・委員会	主	
プロジェクト		
*人材確保・育成・定着PT 随時 実習受け入れ関連も含む OJTについても進める。	辻井	福田 前川 松永 三神
*広報・啓発PT 月1回 法人広報誌の発行 法人HPの活用等法人の広報・啓発活動を進める	上江洲 片山	山川 大西 阪口 稲月
*GH運営体制PT 月1回	八木	山本 谷口 溝田 野口
*通所バス運営PT 月1回	山下	木村 野口 九門 岩崎 西島
委員会		
*経営計画推進委員会 ①送迎サービスの見直し、②事業所役割の明確化について 個別支援計画に基づいた支援の確立についてはサービス 提供会議にて継続協議	脇田	山下 松永 九門 稲月
*検証・改善委員会 月1回 ヒアリング、事故報告の検証、改善⇒提案 不適切な支援等につながる事案の検証、改善⇒提案	谷口	豊川 堀 大路 主任・所長以外の支援員等各所から1名
*事例検討委員会 月1回	山本	伊藤 池田 原田 主任・所長以外の支援員等各所から1名
*進路・異動等委員会 年間スケジュール化 適時	溝田	脇田 山下 山本
*すこやか委員会 2か月に1回	上江洲	看護師・栄養士
*GH委員会 月1回	八木・深見	主任・所長以外の各所担当スタッフ1名
*バス運営委員会 年2回程度	木村	委員会構成メンバー

- *検証・改善委員会、事例検討委員会、サービス提供会議と事業運営会議が連動し、虐待、事故等の防止や支援スキルの向上等に繋がるよう、それぞれの役割が連動するように意識した取り組みを行う。
- *各事業所管理者は、虐待防止マネージャーの役割を担い、事業運営会議では、必要に応じて、マネージャー会議（虐待防止委員会）を担う。

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none">1. サービス管理責任者の支援スキル(特にケースワークに関する)向上を目指します。2. 新しいアセスメントシート、個別支援計画書・モニタリング、フェイスシートを活用しながらその内容の見直しを継続していきます。3. 利用者の個人台帳の整備を引き続き行います。4. 利用者支援で必要な関係機関との連携支援が実施出来るように研修を進めます。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none">1. サービス管理責任者の支援スキルの向上を目指していたが、具体的な取り組みが出来なかった。何が必要なのか検討したい。2. 各種シートを作成するタイミングで状況を確認しながら運用しました。 個別支援計画書やモニタリングの形が変わり記入方法など現場で混乱が生じましたが、その都度サービス管理責任者同士で確認することで問題なく進めることができました。今期は問題なく運用することができました。3. 利用者個人台帳の整備は全事業所整備が完了しました。必要な書類の保管整備が継続できるよう働きかけていきます。
報告事項
<p>定例の会議以外にはグループウェアで情報交換をすることで会議が開催できない状況をカバーすることができました。今後も ICT を活用しながら進めていきます。</p> <p>会議（オンライン含む）：5/26・7/21・8/19・9/22・10/27</p>
年間総括
<p>新型コロナウイルス感染症の影響で計画通りに進めることが難しい状況でしたが、支援計画書の作成、モニタリングの時期など節目の時期には情報交換をしながら進めることが出来ました。</p> <p>また代替的支援など普段とは違う状況であっても、サービス管理責任者が情報を発信し共有することができました。</p> <p>来年度は支援スキルが向上するにはどうすればよいのかサービス管理責任者と意見交換しながら進めていきます。</p>

今年度の重点目標
<p>第一に、学生たちが障害者福祉を知る機会を持つ取組を行い、それが法人と養成校との連携を構築し、養成教育を受けた人材が毎年受験することを目的として、5～10年後を見越した仕組みを計画する。</p> <p>第二に、入職した新人職員並びにその他の法人職員に対し、仕事のおもしろさを追求できるような法人研修を行う。また、コミュニケーション豊かな法人組織づくりを構築するため職員交流の機会を設ける。</p>
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<p>1. 人材確保</p> <p>(1) 福祉系および保育士養成校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者施設協会人材確保委員会【4/9.8/12.9/10.1/7.2/24.3/14】 ・養成校非常勤講師活動【神戸常盤大学・頌栄短期大学・園田学園女子大学・関西大学】 ・園田学園女子大学介護等体験実習事前指導【5/15】 ・園田学園女子大学保育実習前指導【1/7.1/18】 ・相愛大学施設実習事前指導【7/15.11/19】・養成校教師によるリカレント見学【12/23】 <p>(2) 事業所見学・就職ガイダンス・採用試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所見学対応・ガイダンス【4/23.6/17.7/30.9/81/14.2/17】 ・法人職員採用試験【5/22.6/12.7/17.10/16.11/20】 <p>2. 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人研修【6/4(C).6/18(E).7/9(B).7/16(A).8/27(D).9/24(C).10/22(B).11/12(E) 11/26(D/F).1/14(A).1/28(E)】 ・新採用者内定式及び内定者懇談会【12/12】・新任研修【1/21.3/10.3/18】・新任職員入職式【3/26】
報告事項
<p>1. 令和3年度採用者等</p> <p>(1) 職員採用者数 10名 (2) 臨時職員採用者数 22名</p> <p>2. 離職者数（定年退職・契約期間満了含む）</p> <p>(1) 職員離職者数 19名 (2) 臨時職員離職者数 9名</p> <p>3. 令和4年度新規 採用者数 10名</p>
年間総括
<p>・昨年度、コロナ禍を理由に殆ど遂行することを怠っていた法人研修について、今年度は精力的に実施することができました。緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が発令されている期間の研修開催については悩ましい課題ではありましたが、ICT 技術を活用したオンデマンド型に切り替えることで、計画の9割以上の遂行ができたことが成果の背景にあると考えます。</p> <p>しかし、法人研修の充実と並行して、各事業所での日常的に行われるO-JTの充足がなければ、人材育成と定着の成果の向上が難しく、今後は、本プロジェクトと各事業所運営の連動を意識した取り組みが必要と考えます。</p>

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人広報誌を年2回発行します。 2. 法人HPの活用を進めます。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人広報誌を年2回発行します。 <ol style="list-style-type: none"> ①後期も1ヶ月に1回を目安に会議を開催し、12月上旬に2回目(5号)広報誌を発行しました。 ②広報誌の内容は、理事長挨拶、1回目(4号)と連動する内容(委員会等の紹介、法人研修紹介等)、宝塚めふプラザ仮移転状況、中堅職員インタビュー、各事業所の様子等を2回目(5号)に盛り込みました。 2. 法人HPを更新していく。 <ol style="list-style-type: none"> ①作業部会を実施し、11月中旬に更新該当全事業所の年度内、2回以上の更新を行うことができました。 ②見てわかるHPを目指し、見せ方の研究として、法人HPの活用について法人全職員を対象としたアンケート調査を実施しました。アンケート調査結果から見出せた現状や課題について、法人全職員の声として認識し、今後、一つずつ法人全職員で取り組んでいきます。 ③作業部会は10～11月にかけて実施しています。
報告事項
<ul style="list-style-type: none"> ・法人広報誌発行：7月中旬(4号)、12月上旬(5号) ・法人HP更新：各事業所年度内2回以上の更新達成 ・会議：5/14、6/16、7/21、8/18、9/22、10/20、11/17、12/15、2/21(1月は新型コロナウイルス感染状況を鑑み中止)
年間総括
<p>3年間で法人広報誌及び法人ホームページの作成や更新についての取り組みは、軌道に乗り始めました。法人ホームページの活用については、各事業所の更新頻度や内容もボリュームを増してきています。</p> <p>次年度は、各事業所の広報・啓発担当者を中心に法人全職員に浸透していけるよう仕掛けをしていきます。法人職員全員を対象としたアンケート調査を行い、広く意見を募り、結果を反映させていきます。</p> <p>法人職員が、組織の中で自分の考えや気持ちをだれに対しても安心して発言できる環境づくりの一つとして、職員専用ホームページの内容も充実させていきます。</p>

<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別支援計画に基づいた支援の確立 【松永・九門】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育とフォローアップ (2) 個別支援計画の意味と理解 (3) プロセスの理解 2. 送迎サービスの見直し 【山下・稲月】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別送迎サービスの課題等を検証します。 (2) 個別送迎サービスの実用化に向けて検討を行います。 3. 事業所役割の明確化 【脇田】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業所の特色を可視化します。 (2) 未来の事業所の特色を把握します。
<p>目標達成に向けての取り組み経過及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別支援計画に基づいた支援の確立に向けて、法人内で統一したOJTが出来るように継続して検討し、サービス提供会議で発信をしました。 2. 送迎サービスの見直しについては、送迎に係る財源確保に着目し、送迎費用の見直しを行った。送迎加算の見直しについては、引き続き協議をしていきます。 3. 事業所役割の明確化については、進路・異動等委員会との連携は継続して行っています。事業所の特色を発信するツールとして、ホームページの更新を積極的に行うなど、広報・啓発PTとの連携も行いました。
<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催日 10月14日(木) 11月10日(木) 12月9日(木) 2. その他 毎月第2木曜日を定例の委員会日と設定し、会議を開催した。しかし、1月と2月については、新型コロナウイルスの影響で会議が開催できませんでした。
<p>年間総括</p> <p>今年度は第2期宝塚さざんか福社会行動計画の二年目になります。一年目に行ったアンケート等を基に現状の分析を行い、3つの重点目標について推進していけるように協議をしました。</p> <p>3つの重点目標を同時に協議していく中で、送迎サービスについては、より現状のニーズが高く、早急に検討が必要な為、後期の協議の中心に置き取り組みました。</p> <p>最後に、経営計画策定委員会が平成31年度にとりまとめた各事業所等の職員からのアンケートを再度読み返し、重点目標を改めて深く知る機会としました。</p>

<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故報告書の事故や支援内容等の分析を行い、防止策や具体的な支援等への改善策について検討を行います。 2. KYT 研修を委員会メンバーが主になって各事業所で実施し、危険予知能力を高めます。 3. 虐待防止対応マニュアル、虐待防止チェックリストを各事業所で実施し、実施後の確認を行い、改善について協議していきます。
<p>目標達成に向けての取り組み経過及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当該年度の事故報告書を所定のフォームに入力し、事故の数値データを参考にして分析を行いました。分析内容を全事業所間で共有し、次年度につなげていくよう意見交換を行いました。内容としては、発生した事故の原因について話し合いを行い、事故を起こした事業所だけでなく他事業所の意見を通して視野を広げ、再発防止策について深めることができました。 2. 10月、11月に KYT 研修を行いました。KYT の概要、演習説明後、実際に演習を実施しました。今年度中に各事業所にて KYT 研修を実施するよう働きかけています。 3. 9月に虐待防止対応マニュアル、1月に虐待防止チェックリストの実施確認を行いました。未実施の事業所については、虐待防止委員会（事業運営会議）内にて実施するよう発信を行いました。
<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバー会議：【2回】5/10、1/17（会議の進め方、年度まとめについて確認） ・委員会開催：【9回】5/17、6/17、7/15、9/16、10/21、11/18、12/16、2/17 3/17（オンラインにて実施）
<p>年間総括</p> <p>今年度は、感染症対策を徹底して福祉センターにて対面で実施しました。事故報告書の確認、分析、KYT 研修の実施、虐待防止対応マニュアル、虐待防止チェックリストの発信、各事業所での実施確認も予定通り行うことができました。今後も委員会の活発が事業所の活発につながる取り組みを続けていきます。</p> <p>検証・改善第三者委員会内でも資料を通して現状の発信を行い、共有することができました。</p> <p>次年度は、委員会で話し合った内容をより各事業所にフィードバック、落とし込んでいくことができるシステムを構築していきます。</p>

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の事例を通じて、利用者中心の支援と視点、考え方の確認を行います。 2. 支援や利用者の姿、環境上の課題を言語化する力と共有する力を高めます。 3. 建設的な意見交換を意識した主体的な会議運営を行います。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議（ZOOM、グーグルミート）を活用し、毎月第2水曜日の13:30～より開催しました。コロナ禍で対面形式での実施が困難な場面が多かった中、ほぼ延期や中止なしで開催出来た事はメリットでした。半面、意見を出し合う中でその場の空気感等が分かりづらいという意見が委員から挙がりました。今後はオンライン形式を軸としながらも、ポイントの場面では対面形式で行う等、柔軟な開催形式で行っていくよう検討していきます。 ・今年度より、日中事業所・入所事業所・GH（9事業所）に加えて、あとむもメンバーに加わりました。各委員は、勤務歴2～10年目の各現場の最前線で支援している職員で構成して開催しました。 ・年間計画で上半期（事例発表）、下半期（事例振り返り）と、発表形態の枠組みを作って実施しました。ねらいとして、各事業所発表したケース（事例）がそれで終わりになるのではなく、継続的な支援を行っていく事の重要性を各委員にも認識してもらう為に導入しました。
報告事項（年間計画、実施日）
<ul style="list-style-type: none"> ・全体顔合わせ、年間計画確認：6/16 ・事例発表：7/14、8/18、9/8、10/13、11/10、12/8、1/12 ・振り返り：12/8、1/12、2/9（延期）、3/9、3/16（仮予定）
年間総括
<p>私達はこの仕事（利用者支援）に興味を持って仕事として選択し、現在に至っています。日々、支援員としての業務・役割をこなしていく中で、現場、特に中堅職員には「利用者に関わる・接する事の面白さや楽しさ」を再認識して欲しいと、そう感じてもらう事が職員離職の低下に繋がると考えています。</p> <p>今年度この委員会は、現場のリーダーであるサービス管理責任者を中心に「否定的な言葉は使用せず、どこが取り組みとして素晴らしいかを皆で指摘する」事を意識して進めてもらいました。この一年で確実に浸透してきたと感じています。次年度も引き続き、建設的な意見が飛び交う、現場の主体的な委員会運営を行っていきます。</p>

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援学校との情報共有を充実させ、希望される方のニーズに合う事業所生活（活動）が提供できるように調整します。 2. 本委員会において、事業所間異動に関する利用者情報を共有し、交流や実習、異動が行える仕組みの構築を図ります。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> (1) 見学については、集団にならないように、一家族単位で随時受け入れていきました。募集要項の整備については、特別支援学校の方にわかりやすく、選びやすいように、各事業所の、特色を出したものを考えていきました。 (2) 各事業所の募集人員枠については、出来るだけたくさんの受け入れが出来るように、各事業所にヒアリングを行い、募集人員の決定を行いました。 (3) 新卒者のニーズにあった入所決定及び受け入れ準備が迅速に対応できるように、毎月の委員会にて進捗状況を確認・調整をしていきました。 (4) 委員会への各事業所の所長の参加に関しては、現状の報告と、募集要項の改善について9月に調整をして意見交換を行いました。 2. 事業所間の日常的に作業交流については、コロナの収束を見ながら提案・実施していく予定でしたが、具体的な交流に結びつく事は有りませんでした。
報告事項
<p>募集要項については見直しの検討を継続して行いました。その中で、各事業所の特色を分かりやすくして、フローチャートで施設選びが出来るように各事業所長さんにも意見をいただきながら作成を行いました。今後は障害のあるご本人様向けの募集要項の作成を目指して、広報委員会とも連携を行いながら来年度からすすめていきたいと思ひます。</p>
年間総括
<p>今年度はこやの里特別支援学校より2名の卒業生をお迎えすることになりました。法人全体では7名の募集をかけておりましたが、重度の方のニーズが高く、希望者が偏ってしまった感があります。来年度は生徒様の数が多いとの事で、さざんか福祉会を希望される方が多くなる見込みですが、学校側との連絡を密にし、ニーズの聞き取りを行い、たくさんの新入所者をお迎えできるように、各事業所の所長とも調整を行いながらすすめていきたいと思ひます。</p> <p>法人内の事業所間異動については、スムーズな異動が出来るように、日常的な事業所間の作業連携や交流が持てるように働きかけていきたいと思ひます。</p>

今年度の重点目標
1. 日々の生活の中で、気を付けたいこと・配慮してほしい事を看護師・栄養士からの視点で家庭や事業所に伝えていきます。 2. コロナ感染予防対策を適切に継続して伝えます。 3. 看護師はチームとして、日中事業所だけでなく、グループホームの生活も含め、一体的に健康予防対策が出来るように取り組みます。
報告事項・年間総括
1. すこやかニュースは12月に1回のみ発行となりました。 ・コロナだけではなく、季節的にノロウイルスの予防もしっかりとしていまいしょうと内容で発行しました。 ・手洗いチェッカーを使用しての手洗いを見てわかるようにと職員への指導をしました。 2. 各事業所でコロナ対策を実践しました。 ①栄養士 食事のとり方や食事場所を重点に予防対策に取り組みました。 ・職員と利用者の食事場所を分ける。席と席の間に仕切りを設置する。食事時間をシフト制にして、人数の制限をする。など工夫しました。 ②看護師 健康チェックや消毒等の対策に取り組みました。 ・朝夕の健康チェックを丁寧に行いました。 ・人が触る場所（ドアノブ、下駄箱等）消毒を徹底しました。 ③コロナワクチン団体予防接種（計3回）を医療機関、行政機関等と連携し希望者接種に取り組みました。 3. 栄養士中心の防災訓練をいきいき宝夢とあしたば園で行いました。 4. 集まったの委員会はず、電話等でのやりとりになりました。 ・コロナ感染が各事業所で発生し、食事の発注や抗原キットの使用等に追われることになりました。前期に物資の準備をしていたのが、対応に役立ちました。（事前に予防対策に必要なもののリストを作り、購入していました。）

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none">1. 利用者の生活を24時間で捉える視点を養い、支援の統一に努めていきます。2. 「GHのバックアップ」ではなく「法人職員、事業所として利用者を支える」への意識変換を図っていきます。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容・報告・年間総括
<ol style="list-style-type: none">1. グループホーム運営上の確認事項と連絡事項や、利用者支援情報については、月1回の資料の発信と、質疑応答をお互いに行う事で、支援の統一を図っていきました。 バックアップに入った職員が、もっと疑問や、質問をリアルタイムで行えるような仕組みを今後も継続して考えていきます。2. 日中事業所の人材を広くグループホームの支援に入ってもらうことで、それぞれの職員が、利用者のホームでの生活を実感してもらえるように取り組みました。 また、グループホーム職員の日中事業所への派遣することでの、支援情報の共有の取り組みについては、1年間、継続して実施出来たことが、職員の見識を広める良い機会となったので、対象事業所も広げながら、今後も継続して取り組んでいきます。

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none">1. 利用者の地域生活を支えていく為の、法人としての新しい運営体制の提案。2. 地域生活支援を継続的に支えていく為の人員活用の提案。3. 新しい運営体制の実現を見据えたスケジュールの作成。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容・報告・年間総括
<ol style="list-style-type: none">1. 令和3年度後期については、10月、11月、12月の3回は開催できたが、1月、2月に予定していた回が、新型コロナ対応で予定通りに実施できなかったため、今年度の検討内容の取りまとめの作成が出来ませんでした。2. 新しい運営体制案をより具体化する為に、具体的な職員配置シミュレーションを作成し、実際に配置基準上の必要な職員数を割り出し、法人に対して職員確保の提案資料の原案の作成を行いました。3. 利用者にご協力を頂き、これから望む暮らし方のアンケートの結果を集計して、運営体制案に具体的に反映させた資料の原案を作成しました。4. 次年度については、今年度作成した職員配置シミュレーションや体制案を基本にしながら、再度、今年度の事業運営の中で、明らかになった問題点や、検討等材料を加味した上で、実際に取り掛かれる体制案を提案していきます。

今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none">・法人の通所バス管理を永続可能な体制に整備します。 (ワークバス/あしたばバス/長尾バス/仁川バス/ホームバス)・通所バスの管理体制について、通所事業所、グループホームと連携を図り、業務分担および効率化を図ります。
目標達成に向けての取り組み経過及び内容・報告・年間総括
<p>10月から、各通所バスの管理を車両管理担当から各管理部署（下記参照）に移管。 (ワークバス：ワークプラザ、あしたばバス：あしたば園、長尾バス：くるみの里 仁川バス：さざんかの家、ホームバス：GH オフィス)</p> <p>利用者様が乗車予定のバス時刻表を安定させる事と、乗車ミスなどを防止する為、全通所バスがそれぞれのバスルートを全て巡回する方式に変更した。日々の乗車メンバーを把握する事は、返ってミスが増える結果にも繋がっていたが、改善が見られました。</p> <p>バス添乗員の所有する携帯電話をスマートフォンに変更し、共有する為のアプリをインストールした。管理者側の携帯電話はスマートフォンには移行していないが、先には情報共有を円滑にするため視野に入れています。</p> <p>バス関係職員が一堂に会する機会がこれまで確保しにくかったが、バス関係職員連絡会を行い、バス内での利用者様への関わり方や実際運行時の相談など、話し合いの機会を設けるようにしました。</p> <p>従業員管理、車両の保険契約などの役割分担を検討中です。</p>